

聖和学園短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

聖和学園短期大学の概要

設置者	学校法人 聖和学園
理事長	鈴木 繁雄
学 長	鎌田 文恵
A L O	荒 暁子
開設年月日	昭和26年4月20日
所在地	宮城県仙台市泉区南中山5-5-2

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
キャリア開発総合学科		170
保育科		80
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

聖和学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念は仏教主義に基づく教育の実践である。特に、「慈悲」と「和」を中心理念とする教育を実践している。平成18年から学園長を新設し、学園全体の仏教主義に基づいた一貫教育の徹底を図っている。特に、全人的な人格形成と情操教育の実践を目指し、「聖和総合教育」において勤行を実施するなど建学の精神に基づいた特色ある教育活動を実践している。

保育科は、資格取得に対する明確な目的と高い学習意欲をもつ学生に応じた学習内容を用意し、保育者養成を行っている。キャリア開発総合学科においては、幅広い資格を用意し、ユニット制度を導入し学生の状況に合わせて学習内容を改善し、きめ細かい学生指導を行っている。

教員組織、教育環境とも短期大学設置基準を充足しており、保育科、キャリア開発総合学科ともに教育目的に沿った短期大学の教員を用意している。図書館サービス体制も、情報発信もおおむね充分である。教育実施に当たる体制においても、学科長、学長などの役割とその連携はおおむね取れている。

保育科、キャリア開発総合学科ともに単位取得状況はおおむね妥当であり、学習評価も適切である。学生の進学および就職を含む卒業後の状況について積極的な把握に努め、卒業時アンケートや卒業後の状況調査などに真摯に取り組んでいる。

募集要項などには入学者選抜の方針、多様な選抜方法がわかりやすく記載されている。また、学生便覧など、学習支援のための印刷物が発行され、理解しやすいものとなっている。また、生活支援のための教職員の組織が整備され、学生生活支援体制が整備されている。さらに、障害者の受け入れが可能な施設を整備するなど、障害者への支援体制もおおむね整っている。

教員個々の研究活動は、『聖和学園短期大学紀要』において公開され、そのなかで教育に関する共同研究が保育科とキャリア開発総合学科の前身である生活文化科において展開されている。全体としては教員の研究活動はおおむね展開されているといえる。研究成果発表の機会、研究室、研究日などの研究環境はおおむね整備されている。

地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体などと効果的な交流活動を行っており、社会的活動への取組みが推進されている。また、学生のボランティア活動などを奨励するなど、学生の社会的活動を積極的に評価している。

理事長が短期大学運営に対する基本方針を示し、リーダーシップを発揮している。また理事会の決定事項などは学長を通じて教授会で報告されている。学長は定期的に学長・部科長会を開き、リーダーシップを発揮している。事務組織も諸規程が整備され適切に運営されている。

年度予算は適正に執行されており、日常的な出納業務も円滑に実施されている。また、資産の管理運用も適切な会計処理が行われており、財務情報も同窓会会報別紙で公開されている。資金収支および消費収支は均衡しており、健全である。また、学校法人の資金は健全に維持されている。教育研究経費比率は適切な配分である。短期大学に必要な施設設備は適切に整備されている。また、それらを管理するための管理規程も整備され、適切な管理がなされている。

毎年自己点検・自己評価を行っており、平成14年、平成15年、平成16年に自己点検・自己評価報告書を刊行している。また、平成11年に桜の聖母短期大学との相互評価を実施している。今回の第三者評価実施後に、相互評価を行うことを検討している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「聖和総合教育」における勤行や各種仏教行事は、学生がリーダーとなって実施されており、仏教主義に基づいた全人的な人格形成と情操教育の実践を行っている。

評価領域 教育の実施体制

障害者への対応として障害者用トイレ、スロープ、エレベーターが設置されているだけでなく、難聴者に対するノートテイクなどの支援も行われており、ハード、ソフト両面における障害者支援は優れている。

評価領域 学生支援

キャリア開発総合学科において1年生の後期末に行われる各ゼミ担当教員との三者面談は、家族も含めたキャリア教育として有効性が高いと評価される。

社会人学生や障害のある学生を受け入れる施設設備と支援体制がおおむね整っている。

評価領域 社会的活動

ボランティア活動などを通じて、地域社会に貢献しており、地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体などと効果的な交流活動を行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

キャリア開発総合学科の教育目標に国際化が掲げられているが、教育課程上の対応が希薄な点が見受けられる。

評価領域 研究

個人研究費の支給とその支給規程の整備を含め、教員の研究・研修環境をより向上させる必要がある。

評価領域 改革・改善

授業評価の着手が遅かったことに現れるように、全学的に点検・評価に対する風土の醸成とシステム構築に一層取り組むことが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念は仏教主義に基づく教育の実践である。特に、「慈悲」と「和」を中心理念とする教育を実践している。平成18年から学園長を新設し、学園全体の仏教主義に基づいた一貫教育の徹底を図っている。特に、全人的な人格形成と情操教育の実践を目指し、「聖和総合教育」において勤行を実施するなど建学の精神に基づいた特色ある教育活動を実践している。

保育科、キャリア開発総合学科ともに、それぞれの教育目的・教育目標は明確である。また、平成11年、平成17年と学科改組が実施されており、その都度、教育目的・教育目標の点検および変更などが行われている。

学生に対しては、学生便覧に教育目的・教育目標を明記し、周知させている。教職員に対しては、教授会、学科会を通して周知させている。また、仏教主義に基づく教育目標を共有するために各種仏教行事を全学的に実施するなど、努力がみられる。

評価領域 教育の内容

保育科では、豊かな人間性と幅広い教養、専門的知識、基礎的技能を身につけるといいう教育目的のもとに教育課程が体系的に編成されている。キャリア開発総合学科では、有能なる学生の育成という教育目的に沿って幅広い資格取得と知識が体系的に整備されている。

保育科の教育課程は、取得免許・資格において自ずと限定性を帯びてくるが、学生の多様なニーズに応えながら「心」、「知識」、「技能」の修得を目指したカリキュラムを編成

している。キャリア開発総合学科では、多様な資格が用意され、ユニット制により学生の選択の自由と多様なニーズに応えている。

両学科ともに授業内容、教育方法、評価方法を十分に示したシラバスが作成され、学生に配布されている。その記載内容には若干の散らばりがあるが、学生に分かりやすい表現になっており、使用教科書、参考書についても記されている。

学生による授業評価については、平成17年からの実施と、着手が遅かったが、ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動と連携している点において改善への努力がみられる。

評価領域 教育の実施体制

保育科、キャリア開発総合学科ともに短期大学設置基準の教員数を充足し、教員は教育実績などにおいて当該学科の教育目的に沿った短期大学の教員に相応しい資質を有している。また、教員の採用、昇任の基準についても整備されている。教員の年齢構成については50歳代が多いが、おおむねバランスは取れている。

校地および校舎の面積は短期大学設置基準を充足し、教育環境として適切に整備されている。講義室、演習室、実験・実習室については、取得免許・資格に応じて用意され、活用度も高く、教育環境はおおむね整備され活用されている。

図書館の広さは充分であり、学科新設に伴い蔵書数も増加し、学生の利用できる参考図書や関連図書も備えられている。ただ、学術雑誌数などが若干少ないといえる。司書の数など図書館のサービス体制も整備され、購入図書選定システムなどもおおむね確立している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

学生全体に占める休学、留年などの状況については、全学としては妥当な範囲ではあるが、キャリア開発総合学科における退学者数が保育科に比較して多いことが懸念される。ゼミ担当教員、学生およびその家族による三者面談の実施など、このような状況への対応策が採られ、努力していることがうかがえる。

保育科の専門職への就職率は高く、それは当該短期大学の学生の卒業後評価への真摯な取組みの表れと理解することができる。キャリア開発総合学科の前身である生活文化科、人間コミュニケーション学科において就職率が低かったが、それだけにキャリア開発総合学科への改組とそこでのキャリア教育の成果が期待される。

評価領域 学生支援

短期大学案内には、建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像などが明示されている。また、募集要項には入学者選抜の方針、多様な選抜方法がわかりやすく記載されており、入学に関する支援が行われている。

学習の動機付けに焦点を合わせた学習や科目選択のためのガイダンスなどが適切に行われている。また、学生便覧など、学習支援のための印刷物が発行され、理解しやすいものとなっており、学習支援が組織的に行われている。

生活支援のための教職員の組織が整備されている。クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が活発に行われ、支援体制も確立している。学生生活全般に対する支援体制が整備されている。

就職支援のための教職員の組織が整備され適切に活動している。就職支援室などが完備され、学生に必要な情報が提供できている。就職・進学に対する総合的な支援が行われている。

社会人学生の学習を支援する体制は整っている。障害者の受け入れが可能な施設を整備するなど、障害者への支援体制は、おおむね整っている。その他の点についても努力している。したがって、多様な学生に対する支援が行われている。

評価領域 研究

教員個々の研究活動は、『聖和学園短期大学紀要』において公開され、そのなかで教育に関する共同研究が保育科とキャリア開発総合学科の前身である生活文化科において展開されているが、3年間で研究活動の成果が現れていない教員が複数いることなど、懸念される点がある。

研究成果発表の機会は、『聖和学園短期大学紀要』において用意され、研究室、研究日は整備されているが、研究費の支給規定が定められていない点が懸念される。

評価領域 社会的活動

社会的活動についての位置づけが明確にされている。また、地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体などと効果的な交流活動も行っている。その他の点についても努力しており、社会的活動への取組みが推進されているといえる。

ボランティア活動などを通じて地域社会に貢献している。また、学生の社会的活動に対して積極的に評価している。

評価領域 管理運営

理事長が短期大学運営に対する基本方針を示し、リーダーシップを発揮している。また理事会の決定事項などは学長を通じて教授会で報告されている。学長は定期的に学長・部科長会を開き、リーダーシップを発揮している。事務組織も諸規程が整備され適切に運営されている。

事務組織は総務課、教務課、学生課、保健管理センターの4つの部門に分掌され、合計8名の専任職員が担当している。その他に4名の派遣職員が業務に当たっている。

教職員の就業に関する諸規程が整備されており、適切に処理されている。また、それぞれの部会（教務部、学生部など）で教職員間のコミュニケーションがとられている。しかしながら、短期大学教職員（非常勤を含む）の健康診断の受診率が低いので、この点については改善が求められる。

評価領域 財務

資産の管理運用については適切な会計処理が行われており、財務情報も同窓会会報別紙で公開されている。

年度予算は適正に執行されており、日常的な出納業務も円滑に実施されている。資金収支および消費収支は均衡しており、健全である。また、学校法人の資金は健全に維持されている。教育研究経費比率は、適切な配分である。短期大学に必要な施設設備は適切に整備されている。また、それらを管理するための管理規程も整備され、適切な管理がなされている。

評価領域 改革・改善

毎年自己点検・評価を行っている。また、平成11年に桜の聖母短期大学との相互評価を実施している。

自己点検・評価委員会は教員が各部長、学科主任、事務局からは事務長で構成されており、教員の半数以上が評価活動に関わっている。しかしながら、自己点検・評価の結果をどのように活用し、改善につなげていくか、そのシステム構築については不十分であり、今後の課題となっている。